



一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

日程：2025年12月23日(火)、24日(水)

(1日目) 予選4試合

(2日目) 準々決勝、ランダムマッチ(9~16位) 準決勝、決勝、キーノートレクチャー

会場：ハイブリッド型 東京大学+オンライン (Zoom)

主催：一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

共催：東京大学生産技術研究所、大阪公立大学

後援：文部科学省、朝日新聞社、朝日中高生新聞、全国高等学校長協会、

一般社団法人 日本英語交流連盟、

一般社団法人 日本高校生パーラメンタリーディベート連盟

協賛：東京大学生産技術研究所次世代育成オフィス (ONG)

公益財団法人 Tazaki 財団、一般社団法人 国際教育英語試験協会

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

一般財団法人 三菱みらい育成財団



公益財団法人
Tazaki財団



一般社団法人
国際教育英語試験協会



Supported by
日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION



一般財団法人
三菱みらい育成財団

参加校(現地)：

(北海道) 北海道釧路湖陵高校(青森県) 青森県立青森高校、八戸聖ウルスラ学院高校
(岩手県) 岩手県立一関第一高校(山形県) 山形県立長井高校(茨城県) 茨城県立水戸第一高校、清真学園高校、東洋大学附属牛久高校(栃木県) 栃木県立宇都宮高校、栃木県立大田原高校、栃木県立真岡女子高校、作新学院高校(群馬県) 群馬県立太田女子高校(埼玉県) 埼玉県立浦和高校、埼玉県立川越女子高校(千葉県) 芝浦工業大学柏高校、翔凜高校、千葉県立千葉高校、東邦大学付属東邦高校(東京都) 筑波大学附属駒場高校、東京都立日比谷高校、東京都立三田高校、東京都立武蔵高校、桜丘高校、渋谷教育学園渋谷高校、獨協高校、東洋英和女学院高等部、山崎学園富士見高等学校(神奈川県) 神奈川県立湘南高校、神奈川県立相模原高校、神奈川県立多摩高校、神奈川県立茅ヶ崎北陵高校、神奈川県立柏陽高校、神奈川県立横須賀高校、浅野高校、栄光学園高校、慶應義塾高校、湘南白百合学園高校、聖光学院高校、洗足学園中学高校(福井県) 福井県立藤島高校(長野県) 長野県長野高校、長野県松本県ヶ丘高校、長野県屋代高校(静岡県) 静岡県立清水東高校、静岡県立吉原高校(愛知県) 南山高等学校女子部(京都府) 京都市立堀川高校、ノートルダム女学院高校、立命館高校(大阪府) 大阪府立北野高校(兵庫県) 雲雀丘学園高校、松蔭高校(奈良県) 奈良県立奈良高校(岡山県) 岡山県立岡山大安寺中等教育学校(徳島県) 徳島県立城ノ内高校、徳島県立徳島北高校(福岡県) 福岡県立城南高校(大分県) 大分県立別府翔青高校

参加校(オンライン)：

(青森県) 青森県立八戸高校(岩手県) 岩手県立花巻北高校、岩手県立盛岡第一高校(秋田県) 秋田県立角館高校(山形県) 山形県立山形東高校、山形県立東桜学館高校(栃木

県) 栃木県立宇都宮東高校 (埼玉県) 埼玉県立浦和第一女子高校 (千葉県) 千葉県立船橋高校 (東京都) 東京都立千早高校、品川女子学院高等部 (神奈川県) 神奈川県立厚木高校、神奈川県立横浜翠嵐高校、神奈川朝鮮中高級学校 (山梨県) 山梨県立甲府西高等学校 (長野県) 伊那北高校、長野県諏訪清陵高校 (岐阜県) 岐阜県立岐阜高校 (愛知県) 愛知県立半田高校、東海高校、大成高校 (三重県) 三重県立四日市高校 (滋賀県) 滋賀県立彦根東高校 (京都府) 京都府立嵯峨野高校、京都橘高校 (大阪府) 大阪青凌高校、関西創価高校、関西大倉高校 (兵庫県) 神戸大学附属中等教育学校、神戸市立葺合高校 (和歌山県) 和歌山県私立開智高校 (鳥取県) 鳥取県立鳥取東高校、鳥取県立鳥取西高校 (山口県) 宇部フロンティア大学付属香川高等学校 (福岡県) 福岡県立香住丘高校 (熊本県) 熊本県立八代高校、真和高校、(鹿児島県) 鹿児島県立甲南高校、鹿児島県立鶴丸高校 (沖縄県) 沖縄県立向陽高校、沖縄県立具志川高校

現地 59 校、オンライン 41 校、合計 100 校

開催趣旨：

一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会(PDA)では、グローバルに活躍する人財育成の一手法として、英語での発信力、論理的思考力、幅広い知識・考え方、プレゼンテーション力、コミュニケーション力などの複数の力を効果的に訓練可能な即興型英語ディベートを推進しています。

本大会では、即興型英語ディベートの普段の練習の成果を試し、全国の高校生と議論を交わすことで、さらなる成長・学習意欲を促すことを目的とします。授業での取り組み成果を発揮できるよう、形式は授業導入可能なフォーマットです。(参照：文部科学省助成事業 <http://englishdebate.org/debate/>)

論題 (論題は、毎回ディベート開始 15 分前にはじめて発表されます)

予選 1 : Universities should prioritize regional diversity over academic performance in admissions.

(大学は、入試において学力成績よりも地域的多様性を優先すべきである。)

予選 2 : Japan should abolish the mandatory retirement age.

(日本は、定年制を廃止すべきである。)

予選 3 : Japan should abolish tax exemptions for foreign tourists to address overtourism.

(日本は、オーバーツーリズム対策として、訪日外国人への免税を廃止すべきである。)

予選 4 : AI decisions are better than politicians' decisions.

(人間の政治家による判断よりも AI による判断の方が良い。)

準々決勝 : In group decision-making, one should follow the majority.

(集団意思決定において、多数派に従うべきである。)

準決勝 : In foreign policy decision-making and execution, the judgment of diplomats should be prioritized over that of heads of government.

(外交の政策決定・実施にあたり、首脳よりも外交官の判断を優先すべきである。)

決勝 : Japan should possess nuclear weapons.

(日本は核兵器を持つべきである。)

キーノートレクチャー講師

- ・チームみらい党首、AI エンジニア・起業家、SF 作家 安野 貴博氏
- ・東京大学生産技術研究所 人間・社会系部門、複雑社会システム研究センター 特任講師 伊藤 真利子氏
- ・一般社団法人日本英語交流連盟名誉会長、元駐カナダ・パキスタン大使、元外務報道官、在日カナダ商工会議所名誉顧問会長 沼田 貞昭氏

1 日目

第 11 回高校生即興型英語ディベート全国大会 2025 は、昨年に引き続き、現地参加とオンライン参加を併用したハイブリッド形式で実施され、全国各地から過去最多となる 100 校の高校が参加する大規模な大会となりました。会場およびオンライン上には、地域や環境を越えて多くの高校生ディベーターが集結しました。

受付開始時には、PDA オリジナルテーマソングが流れる中で参加校の受付が行われました。受付を終えた生徒の中には、テーマソングの歌詞に合わせて POI (Point of Information) のポーズを取ったり、手拍子でリズムを取ったりする姿も見られ、会場には大会の開始を待ち望む活気ある雰囲気が広がっていました。

開会式では、大会全体の進行方法やルール上の注意点に加え、オンライン試合特有のポイントについても改めて説明が行われました。生徒たちは配布資料やスライドを確認しながら説明に耳を傾け、次第に真剣な表情へと切り替わっていきました。初戦の論題が公開されると、会場内外で一斉に準備が始まり、限られた時間の中で戦略を検討したり、想定される反論を書き出したりする様子が各所で見られました。



開会式の様子



POI の練習

開会式が終わると、予選ラウンドが開始されました。予選第 1 ラウンドの論題は「大学は、入試において学力成績よりも地域的多様性を優先すべきである。」でした。近年、大学入試においては学力評価の在り方に加え、地域格差や教育機会の不平等、大学が社会に果たす役割などが議論されるようになっており、本論題もそうした背景を踏まえたものとなっています。

大学進学を将来的に控える高校生にとって、入試制度は身近なテーマである一方、地域的多様性という観点から制度全体を捉える必要があり、生徒たちは自分自身の立場と社会的視点の双方を意識しながら議論を展開していました。肯定側からは、地域的多様性を確保することで大学内の学びが豊かになる点や、地域間の教育格差を是正する意義、将来的な社会全体の発展につながる可能性などが主に主張されていました。

一方、否定側からは、学力成績を入試の中心に据えることの公平性や透明性の重要性、地域的多様性を優先することによって学力評価が軽視される懸念などが挙げられました。また、地域的多様性をどのように定義・測定するのかといった制度設計上の課題についても言及が見られました。大学入試において何を最も重視すべきなのか、また大学が果たすべき役割とは何かについて、多角的な視点から議論が交わされ、初戦から非常に充実したラウンドとなりました。



準備時間の様子（南山）



スピーチの様子（太田女子 VS 日比谷）



握手（水戸第一 VS 獨協）



交流（関西創価 VS 岐阜）



握手（嵯峨野・千早）



ジャッジによるフィードバック

予選第2ラウンドの論題は「日本は、定年制を廃止すべきである。」でした。少子高齢化が進む日本社会において、労働力不足や高齢者の働き方が課題となる中、高校生にとっても身近な社会問題として関心を集めるテーマでした。

定年制の役割や目的を整理した上で、働くことが個人や社会に与える影響について議論が展開されました。肯定側からは、高齢者が意欲や能力に応じて働き続けられる点や、労働力確保、社会保障制度の持続可能性につながるという意見が多く見られました。一方、否定側からは、若年層の雇用機会の確保や、世代交代による組織活性化の重要性が指摘されまし

た。定年制廃止による評価基準の不明確さや労働環境への影響についても論点となり、働く世代全体への影響を踏まえながら、予選第 1 ラウンドでの学びを活かした活発な議論が行われました。



スピーチ（三田 VS 多摩）



POI（北野 VS 栄光）



握手（雲雀丘 VS 一関第一）



握手（屋代 VS 松蔭）



POI（盛岡第一 VS 千早）



スピーチ（嵯峨野 VS 伊那北）



山形東 VS 具志川



四日市 VS 鶴丸



握手（香住丘 VS 東海）

予選第 2 ラウンドと予選第 3 ラウンドの間には、特別講演および実践セッションが行われました。はじめに、東京都立武蔵高等学校の中村隆道先生より、AI ディベートシステムを用いた授業の取り組みについてご紹介がありました。

中村先生は、都立松が谷高校、桜修館中等教育学校、日比谷高校、千早高校でのご勤務を

経て、現在は東京都立武蔵高等学校に所属されています。日比谷高校在職時に PDA のディベート活動と出会い、首都圏進学校交流ディベートをはじめとする数々のディベート授業実践を通して、学校現場におけるディベート教育の可能性を切り拓いてこられた先駆的な存在です。約 9 年前から授業にディベート活動を取り入れており、昨年度からは PDA と連携し、AI ディベートシステムを活用した本格的な授業実践を行われています。

講演では、実際の授業の流れや生徒の反応、AI ディベートシステムを活用することで得られる学習効果について、具体的な事例を交えながら紹介が行われました。続く実践セッションでは、AI ディベートシステムを用いたデモンストレーションが行われ、オンライン参加者から立論となるポイントを募って議論を構築し、それに対する AI による反論や評価が即時に提示されました。その様子を受けて、現地参加の生徒や教員が自身の端末でシステムを試してみる姿も見られ、会場内外で高い関心が寄せられていました。



中村先生（東京都立武蔵高等学校）によるご講演

予選第 3 ラウンドの論題は「日本は、オーバーツーリズム対策として、訪日外国人への免税を廃止すべきである。」でした。近年、訪日外国人観光客の増加に伴い、観光地における混雑や地域住民への影響、公共交通機関や生活環境への負荷などが社会問題として取り上げられており、本論題もこうした背景を踏まえたものとなっています。

免税制度は観光促進や経済活性化を目的として導入されてきましたが、観光客の集中を招いているのではないかという指摘もあり、生徒たちは制度の目的や効果を整理しながら議論を進めていました。肯定側からは、免税を廃止することで観光需要を抑制し、地域住民の生活環境の改善や持続可能な観光につながるという意見が多く見られました。

一方、否定側からは、免税制度が訪日外国人観光客の来訪動機の一つである点や、地域経済や小売業への影響の大きさが指摘されました。免税廃止による需要減少の可能性や、オーバーツーリズムの原因が免税制度のみにあるわけではない点も論点となり、観光政策と地域社会の在り方について多角的な議論が展開されました。



大田原 VS 堀川



奈良 VS 筑駒



太田女子 VS 桜丘



徳島北 VS 清水東

予選第4ラウンドの論題は「人間の政治家による判断よりも、AIによる判断の方が良い。」でした。近年、AI技術の発展により、行政や政策決定へのAI活用の可能性が議論される中で、政治における意思決定の在り方を根本から問う論題となりました。

政治家による判断とAIによる判断のそれぞれの特徴や役割について、多角的な観点から議論が展開されました。肯定側からは、AIは大量のデータを基に客観的かつ効率的な判断が可能であり、人間の感情や利害関係による偏りを排除できる点が主に主張されていました。一方で否定側からは、政治判断には倫理観や価値観、国民の感情への配慮が不可欠であり、それらはAIには担いきれないという意見が多く見られました。

また、AIに判断を委ねた場合の責任の所在や、誤った判断がなされた場合に誰が責任を負うのかといった点も重要な論点となりました。予選最後のラウンドということもあり、これまでのラウンドで得た学びを活かしながら、最後の一秒まで全力で意見を述べる姿が多く見られ、非常に熱意にあふれるラウンドとなりました。



青森 VS 立命館



スピーチの様子（別府翔青）



真岡女子 VS 柏



POI（柏陽 VS 清真）

大会 1 日目は、クリスマスイブの前日にあたる日程で実施されました。今年も昨年と同様に、PDA 学生スタッフがサンタクロースに扮し、参加者へささやかなプレゼントを配る企画が行われました。連日の白熱したディベートを終えた後、生徒や教員の間では和やかな雰囲気が広がり、参加者同士が交流を楽しむ様子が見られました。

競技としての緊張感と、行事ならではの温かさが共存する中で大会 1 日目は無事に終了しました。翌日に控える決勝ラウンドに向けて、それぞれが学びや気づきを胸に刻みながら、充実した 1 日を締めくくる時間となりました。



サンタクロース（PDA スタッフ）からチョコレートを受け取っています



彦根東高校



花巻北高校



東桜学館高校

オンラインからの参加校も、ディベートや交流を楽しみました

2 日目

大会 2 日目の最初には、決勝ラウンドに進出するチームおよび各種発表が行われました。はじめに、ジャッジブレイクの発表が行われました。教員、社会人によるジャッジは、試合の勝敗を判定するだけでなく、その理由や個人コメントを教育的配慮をもって論理的に生徒へ伝えます。生徒は、ジャッジのコメントに対してどの程度納得できたか、また次への学習意欲がどの程度高まったかという観点から、ジャッジを 10 段階で評価します。今年度は、その平均点が高かった 40 名の先生方が発表されました。上位に選ばれた先生方には、決勝トーナメントにおいてジャッジを務めていただきます。

続いて、準々決勝に進出する予選上位 1 位から 8 位までのチームが発表されました。会場およびオンライン上では、喜びの声や拍手が広がり、大会の緊張感が一層高まる場面となりました。また、今年は参加校数が過去最多となったことを受け、予選 9 位から 16 位のチームによるランダムマッチを実施することとなり、その対象チームの発表も併せて行われました。ランダムマッチでは、勝利したチームの中から成績上位のチームが特別賞の対象となる仕組みが説明され、生徒たちは発表を真剣な表情で聞きながら、次の試合に向けて気持ちを新たにしていました。

予選結果

予選 1 位	大成高等学校	予選 9 位	東海高等学校
予選 2 位	聖光学院高等学校	予選 10 位	渋谷教育学園渋谷高等学校
予選 3 位	徳島県立城ノ内中等教育学校	予選 11 位	神奈川県立茅ヶ崎北陵高等学校
予選 4 位	岡山県立岡山大安寺中等教育学校	予選 12 位	栄光学園高等学校
予選 5 位	神奈川県立横浜翠嵐高等学校	予選 13 位	栃木県立宇都宮東高等学校
予選 6 位	神奈川県立柏陽高等学校	予選 14 位	鹿児島県立鶴丸高等学校
予選 7 位	鹿児島県立甲南高等学校	予選 15 位	神戸大学附属中等教育学校
予選 8 位	福井県立藤島高等学校	予選 16 位	東京都立日比谷高等学校

大会 2 日目には、準々決勝とあわせて、予選 9 位から 16 位のチームによるランダムマッチが同時に開催されました。参加校数が過去最多となった今年度の大会ならではの形式となり、会場およびオンラインの双方で、次の試合に向けた準備が進められました。

準々決勝およびランダムマッチのプレパレーション時間には、前日の予選第 4 ラウンドの論題「人間の政治家による判断よりも、AI による判断の方が良い。」に関連したキーノートレクチャーが行われました。今年は、チームみらい党首であり、AI エンジニア・起業家・SF 作家としても活動されている安野貴博氏より、ビデオメッセージという形でレクチャーをいただきました。

安野氏は、ディベートにおいて重要な要素として「聞く・磨く・伝える」という三つのサイクルを挙げ、相手の話を丁寧に聞いてインプットを行い、日頃からニュースや出来事の背景まで考えることで思考を磨き、それらを言葉としてアウトプットし、他者に伝えることの重要性について語られました。また、これからのリーダーに求められる資質として、AI にはできない「ワクワクする未来を信じる力」の大切さにも言及され、「語られない未来は実現することができない」というメッセージが送られました。ディベートを通して培われる力が、社会や未来を主体的に変えていくための武器になることを強く感じさせる内容でした。

キーノート終了後には、安野氏の秘書であり、チームみらいの立ち上げに携わっている古川あおい氏をお迎えし、質疑応答が行われました。AI と政治の関係や意思決定の在り方、技術と民主主義の関係などについて活発な質問が寄せられ、生徒たちはディベートで扱った論題を、現実の社会や将来の進路と結びつけながら真剣に耳を傾けていました。準々決勝およびランダムマッチに向けた準備の合間に行われた本セッションは、生徒にとって思考を深める貴重な機会となり、その後の試合にも良い影響を与える時間となりました。



安野貴博氏によるキーノートレクチャー



古川あおい氏による質疑応答

準々決勝およびランダムマッチの論題は、いずれも「集団意思決定において、多数派に従うべきである。」でした。民主主義や組織運営における意思決定の在り方を問う論題であり、生徒たちは多数決の意義や限界、少数意見の扱いなどについて、多角的な視点から議論を展開していました。準々決勝は4つの会場で実施され、そのうち3つの会場では現地参加とオンライン参加を組み合わせたハイブリッド形式で対戦が行われました。一方、ランダムマッチは4部屋で実施され、そのうち2部屋がハイブリッド形式となりました。

試合では、予選ラウンド以上に POI（Point of Information）が活発に出され、多くの生徒が観戦する中で、ディベーターたちは堂々とスピーチを行っていました。肯定側・否定側それぞれが、多数派に従うことの利点や問題点を具体例とともに示し、集団として意思決定を行う際に何を重視すべきかについて、深い議論が交わされました。重要な局面での判断基準や、少数意見をどのように扱うべきかといった点も論点となり、緊張感のある白熱したラウンドとなりました。



準々決勝（甲南 VS 聖光）



準々決勝（城ノ内 VS 柏陽）



ランダムマッチ ディベート後の握手（茅ヶ崎北陵 VS 鶴丸）



POI！（東海 VS 日比谷）

準々決勝・ランダムマッチが終了した後は、昼休憩の時間が設けられました。現地会場では、学校の垣根を越えて参加者が集まり、輪になってプレゼントを交換する企画が行われました。この取り組みを通して、生徒同士の会話が自然と生まれ、学校間の交流がより深まる様子が見られました。昼食の時間帯においても、ディベートの感想やこれまでの試合について語り合うなど、活発なコミュニケーションが続いていました。一方、オンライン参加者に向けては、レクリエーションとして Zoom のブレイクアウトルームを活用した交流企画が実施されました。対面とは異なる形ながらも、生徒同士が互いに交流を深める機会となりました。



交流しながら昼食をとりました



プレゼント交換も楽しみました



松蔭高校・武蔵高校



東京都立千早高校

昼食後、準決勝に進出するチームが発表されました。準決勝の論題は「外交の政策決定・実施にあたり、首脳よりも外交官の判断を優先すべきである。」でした。外交における専門性と民主的正統性の関係を問う論題であり、国家意思決定の在り方について深く考えることが求められるテーマとなりました。

準決勝の準備時間には、東京大学生産技術研究所 人間・社会系部門・複雑社会システム研究センターの特任講師である伊藤真利子氏より、準々決勝の論題「集団意思決定において、多数派に従うべきである。」に関するレクチャーが行われました。伊藤氏は、人が他者の意見に同調する理由として、他者に受け入れられたいという「規範的側面」と、他者の意見を取り入れることでより正確な判断を行おうとする「情動的側面」の二つがあることを説明されました。特に、後者に関連して、独立した多数の意見を集めることで正答率が高まる「集合知」の概念について紹介がありました。一方で、意見が同調してしまう状況では集合知が十分に機能しないことから、集団の中においても自分自身の意見を持つことの重要性が強調されました。生徒たちは、直前のラウンドで扱った論題を理論的に捉え直しながら、レク

チャーに熱心に耳を傾けていました。

準決勝の試合では、肯定側・否定側ともに、外交政策における専門性、迅速性、説明責任、民主的統制といった観点から議論を展開していました。活発な POI が飛び交う中で、相手の主張を受け止めながら論点を深めていく姿が見られ、準決勝にふさわしい緊張感と完成度の高いラウンドとなりました。



伊藤真利子氏によるキーノートレクチャー



準決勝（聖光 VS 城ノ内）



準決勝（岡山大安寺 VS 藤島）

準決勝終了後、決勝戦および三位決定戦が同時に行われました。決勝および三位決定戦の論題は「日本は、核兵器を持つべきである。」でした。日本の安全保障や国際社会における立場を問う非常に重いテーマであり、生徒たちは歴史的背景や国際関係、倫理的観点などを踏まえながら、慎重かつ真剣に議論を展開していました。

決勝戦および三位決定戦のプレパレーション時間には、一般社団法人日本英語交流連盟名誉会長であり、元駐カナダ・パキスタン大使、元外務報道官、在日カナダ商工会議所名誉顧問会長を務められた沼田貞昭氏よりキーノートレクチャーをいただきました。元外交官としての豊富な経験をもとに、外交とは本国政府、他国政府、そして世論の間で常に板挟み、あるいは岩ばさみの状況に置かれるものであると述べられました。

その上で、外交官に求められる資質として、円滑なコミュニケーション能力、相手の立場に立って考える共感力、感情に左右されない客観的判断力、そして倫理観や正義感の重要性が挙げられました。また、首脳同士による外交が行われる場面においても、なぜ外交官の専門的な助言が不可欠であるのかについて、個人的な経験を交えながら具体的にお話してくださいました。レクチャーの最後には、外交とディベートの共通点として、相手への配慮を忘れずに、伝えたいメッセージとそれを支える論理をもって相手を説得することの重要性が示されました。将来、ディベートで培った力は必ず社会で役に立つという力強いメッセージが送られ、生徒たちは決勝戦・三位決定戦に向けて、改めて意識を高める時間となりました。



沼田貞昭氏によるキーノートレクチャー

レクチャー終了後、大会最後の試合が行われました。肯定側・否定側の双方が、日本の安全保障や核兵器の抑止力とリスクといった点を踏まえ、論理の一貫性を意識しながら議論を展開していました。観戦していた生徒がメモを取りながら試合を見守る姿も見られ、上位校の議論から学ぼうとする意欲が感じられる、緊張感ある締めくくりとなりました。



決勝（聖光 VS 藤島）



3 位決定戦（城ノ内 VS 岡山大安寺）

最後に表彰式が行われ、チーム賞および個人賞の授与が行われました。あわせて、文部科学省・外務省後援 第 11 回 PDA 高校生パラメンタリーディベート世界交流大会への出場権を獲得した学校の発表も行われ、会場には大きな拍手が送られました。

第 11 回 PDA 高校生即興型英語ディベート全国大会結果

〈チーム賞〉

- 優勝 聖光学院高等学校
 準優勝 福井県立藤島高等学校
 3 位 徳島県立城ノ内中等教育学校
 準決勝進出チーム (4 位)
 岡山県立岡山大安寺中等教育学校
 準々決勝進出チーム
 大成高等学校
 鹿児島県立甲南高等学校
 神奈川県立柏陽高等学校
 神奈川県立横浜翠嵐高等学校
 9 位 東海高等学校
 10 位 渋谷教育学園渋谷高等学校
 11 位 神奈川県立茅ヶ崎北陵高等学校
 12 位 栄光学園高等学校
 13 位 栃木県立宇都宮東高等学校
 14 位 鹿児島県立鶴丸高等学校
 15 位 神戸大学附属中等教育学校
 16 位 東京都立日比谷高等学校



優勝 聖光学院高等学校



準優勝 福井県立藤島高等学校



3 位 徳島県立城ノ内中等教育学校

PDA では、ディベートの強いチーム作りをした学校だけではなく、一般生徒向けに、学校全体で即興型英語ディベートの授業導入された学校を称えます。授業導入賞は、提出された書類やカリキュラムから選ばれました。

〈授業導入優秀賞〉

徳島県立城ノ内中等教育学校、山形県立東桜学館高等学校、千葉県立船橋高等学校

〈授業導入賞〉

岩手県立一関第一高等学校	神奈川県立横須賀高等学校	大阪府立北野高等学校
山形県立長井高等学校	神奈川県立横浜翠嵐高等学校	神戸市立葺合高等学校
清真学園高等学校	神奈川朝鮮中高級学校	宇部フロンティア大学附属香川高等学校
東洋大学附属牛久高等学校	長野県伊那北高等学校	徳島県立徳島北高等学校
栃木県立宇都宮高等学校	長野県長野高等学校	福岡県立城南高等学校
栃木県立真岡女子高等学校	長野県松本県ヶ丘高等学校	福岡県立香住丘高等学校
芝浦工業大学柏高等学校	長野県屋代高等学校	熊本県立八代高等学校
筑波大学附属駒場高等学校	京都市立日吉ヶ丘高等学校	鹿児島県立甲南高等学校
東京都立千早高等学校	京都市立堀川高等学校	沖縄県立向陽高等学校
東京都立武蔵高等学校	ノートルダム女学院高等学校	
渋谷教育学園渋谷中学高等学校		

＜その他個人賞＞（多数、個人名は略）

・ ジャッジ賞、ベストディベーター賞、POI 賞、文部科学大臣賞（ベストスピーカー賞）



ベストジャッジ賞



ベストディベーター賞



ベスト POI 賞



文部科学大臣賞

以上の結果を受け、第 11 回 PDA 高校生パラメンタリーディベート世界交流大会への出場権は、以下の 5 校に進呈されました。

〈1 位～3 位〉聖光学院高等学校、福井県立藤島高等学校、徳島県立城ノ内中等教育学校
〈授業導入優秀賞〉徳島県立城ノ内中等教育学校、山形県立東桜学館高等学校、千葉県立船橋高等学校

アンケート（抜粋）

【生徒の声】

- ・チームメンバーとの協力のなかでたくさんの学びを吸収し、自分の改善点も見つけられた。交流も楽しかった。(岩手・花巻北)
- ・他校との交流がとっても楽しかったし、自分達の英語のリアルなレベルを知れる大会でした！さらに英語を頑張りたいと思える原動力になりました！見聞が深まった2日間でした！（山形・長井）
- ・本当に多様なジャッジの方のフィードバックがいただけて成長できました。(神奈川・横浜翠嵐)
- ・ディベートはもちろん、他校との交流もでてとても楽しかったです。自分より上手な学校のディベートを見て、これから頑張ろうと良い刺激になりました。(熊本・八代)
- ・色々な先生からのフィードバックをいただけて視野を広げることができました。(神奈川・茅ヶ崎北陵)
- ・上手な方の試合も見れて、学べるがたくさんありました。他校の生徒ともお昼休みに交流ができて、またディベートを頑張って次の大会で会いたいと感じました。(千葉・柏)
- ・勉強や英語ディベートへのモチベーションが上がった(栃木・大田原)
- ・対戦相手と論題について英語で深め合う過程がすごく良い経験になりました。論題も興味を引くものが多かったです。(神奈川・朝鮮中級)
- ・ディベートだけでなくさまざまなレクチャーも受けることができてとても有意義な経験ができて楽しかった。(埼玉・浦和一女)
- ・新たな刺激をたくさん得ることができてとても楽しかった。英語の勉強のモチベーションが上がりました！（神奈川・洗足）
- ・最初は緊張したが、ジャッジの方のアドバイスや試合間の他校との交流によって緊張が解けて、楽しめたから。(沖縄・向陽)
- ・どうやったらディベートで相手側やジャッジに上手く伝えられるかを知れてよかった。(京都・嵯峨野)
- ・他校の素晴らしいスピーチも聞けて良かった。自信に繋がった。(東京・日比谷)
- ・ジャッジの先生方がとても優しく的確な評価をしてくださったり、対戦相手の高校さんや決勝を観戦した時の同年代でここまでできるんだと言った感動が大きかったです。論理的思考の一助となりました。(京都・立命館)
- ・質の高いフィードバックやメイクフレンズの時間があり、刺激をたくさん受けることができた大会だった。プレゼント交換など企画がたくさんあり楽しかった。(神奈川・湘南白百合)
- ・ディベートの楽しさを再認識でき、自分の能力の伸びも感じられた。色々な他校の人とも話すことができた。(東京・東洋英和)
- ・他校との交流やキーノートレクチャーによる分野の深い部分まで学べるのでディベートにもっと取り組んでみたいと前向きな姿勢を持つことができた。(沖縄・向陽)
- ・県という壁を超えて多くの人と交流を出来た。雰囲気がよく、積極的に取り組めるものだった。(栃木・大田原)
- ・ジャッジの方や対戦相手の方がとても優しい雰囲気で行ってくださり勝敗関係無くとても楽しめました。(東京・富士見)
- ・様々な高校とディベートの試合ができたため、非常に役に立ちました。2日目のプレゼント交換などの交流が楽しかったです。(群馬・太田女子)
- ・ジャッジの先生方からコメントからいただき、とても前向きに考えることができたので、学びのある機会でした。(長野・伊那北)

- ・まだまだ練習が必要だとよく分かったので、これからの練習に対する意欲が湧いた。(鹿児島・甲南)
- ・他校のディベートの戦術を知ったり、練習試合を申し込むために交流をしに行ったりすることが、現地に来た意味を感じた。(京都・堀川)
- ・とても刺激になる楽しい大会でした。これからもディベートを頑張って、憧れた学校のようなディベートに近づけるように頑張ります。(大阪・北野)
- ・キーノートスピーカーの方のお話で考えを深められたことが良かったです。レクリエーションも楽しかったです！(福岡・城南)
- ・ジャッジの方を待っている時間に対戦相手と地元のことを教え合ったり、話したりできて、メイクフレンズが充実していてとてもたのしかった(長野・伊那北)
- ・議論を活性化させるような POI が非常に多く、勉強になりました。(茨城・水戸第一)
- ・様々な高校の方々とディベートできて、ジャッジの先生方から直接丁寧なフィードバックを受けることが出来て、とても実りのある時間でした。(岩手・盛岡第一)
- ・本当に来てよかったと感じられる大会でした。非常に勉強になることが多かったので次の大会に活かそうと思います。(京都・ノートルダム女学院)
- ・他校の上手なスピーチを聞いているときが一番楽しかったです(福井・藤島)
- ・ディベーターの素晴らしさを見ることができ、POI の有効な使い方を知れた(大分・別府翔青)
- ・他校との実戦で、自分たちに欠けていた基本的なことを学べて、いろんな人と出会えてよかったから。(茨城・牛久)
- ・多くの他高校の生徒と触れ合い、論理的思考力を鍛える良い機会として、とても高い教育的効果があると思った(茨城・清真)
- ・ハイレベルなディベートを見てインスピレーションを受け、英語力が上がった。交流を重視している PDA などの良さがあると思った。(長野・長野)
- ・同級生がこんなにも情熱になる英語でディベートをしている姿を見るといい刺激を受けることができました。モチベーションになります。(大阪・関西大倉)
- ・レベルの高い環境でディベートができたほか、ジャッジの方々の詳細なフィードバックやその論題に関する第一人者のキーノートレクチャーなど、実践・座学ともにとても勉強になる内容でした。(岩手・一関第一)
- ・他校と交流できたこと、他校のスピーチを聞いて勉強できたこと、キーノートスピーチで貴重な話を聞いたことがとても楽しかった。(栃木・真岡女子)
- ・わかりやすく伝えることの重要性を学ぶことができました。毎試合学ぶことがあり、たった2日で凄く成長できました。(神奈川・聖光)
- ・ディベートの時は真剣に、ディベート後は仲良く雑談をするというシステムのお陰で楽しむことができました。(京都・嵯峨野)
- ・英語のリスニング、アウトプットの練習になっただけでなく、自分の中に知識や思考がもっと洗練されたような気がします。(山口・宇部フロンティア)
- ・様々な高校と交流し、ディベートをしてよい経験を得られました。(大阪・関西創価)
- ・他校のレベルの高いディベートを聞き、自分の学びにつながった。また、他校との交流でディベート以外のことも聞けて楽しかった。(鳥取・鳥取西)
- ・どの高校も本当に上手くて、即興型ディベートの熱さを実感しました。(奈良・奈良)

- ・普段は対戦することがないであろう遠く離れた学校さんとの交流や強豪校のみなさんと対戦することができ、キーノートスピーチもとてもわかりやすく、かつ身になるものだった。(神奈川・横須賀)
- ・自分の実力がどこまで通用するのか、全国にどのくらいすごい人がいるのか知ることができたから大変楽しかったです。(青森・青森)
- ・全国大会でなきゃできないようなレベルの高いディベートを実践、観戦できて本当に勉強になりました。(大阪・北野)
- ・全国いろんな高校生とディベートができ、ジャッジの先生にもとてもわかりやすく、的確なアドバイスをもらえたためとても楽しかったです。(福岡・香住丘)
- ・自分の英語の学習に対するモチベーションにつながった(沖縄・具志川)
- ・多くの考え方、知識を得ることができた(秋田・角館)
- ・良いディベートができたし、他校と交流もできて楽しかった(兵庫・雲雀丘)
- ・ディベートをたくさんの全国の高校とできて楽しかった(岡山・岡山大安寺)
- ・勝敗にこだわらず、試合を楽しむことができました。(徳島・徳島北)
- ・自分の知らないディベートの作り方や言い回しを知ることができて楽しかった(東京・千早)

【見学・教員の声】

- ・レベルの高い高校がたくさん集まっていて反論をしたり仕返したりがすごいかっこよかったのでこれから練習で頑張っていきたいなと思いました。(見学)
- ・世の中のことをもっと常日頃から考えよう、英語の勉強を頑張ろうと思う機会になりました。(見学)
- ・全国の生徒との交流ができ、アイディアも地方に住んでいるならではものが出るなど全国大会としての雰囲気が良かったです。(教員)
- ・ディベートマッチだけでなく **Keynote Speeches** で専門家の知見を伺えたことが今後の勉強に大いに役立つと思います。(教員)
- ・全国の生徒たちのディベートが見られて良い機会となりました。楽しい企画もあり、思い出に残るものになったと思います。(教員)
- ・様々な工夫のおかげで生徒も私も楽しませていただきました。ディベートだけでなく、レクチャーで知識を深めることができました。(教員)
- ・ジャッジの機会をいただいたことで、教員自身のモチベーション、楽しさにも繋がりました。(教員)
- ・真剣な空気、教育的な配慮、楽しい空気感が上手に混ざり合っていると感じました。(教員)
- ・皆様のご努力によってここまでディベートが普及されました。ディベートは学校教育にとって非常に重要な活動です。(教員)
- ・日本の未来を担っていくような優秀な高校生達の闊達な議論をリアルタイムで拝聴することができ、私ももっと頑張らなければという刺激を受けました。(教員)
- ・長年の願いだった、生徒を連れてきてこの場を体験してもらおうという希望が叶いました。(教員)
- ・生徒のモチベーションを向上させるには非常に勉強になる大会です。(教員)
- ・ディベートがとても楽しいと感じている生徒が増えていて、教員としてもうれしいです。(教員)
- ・ディベートの合間の交流も高校生同士ということで話しが弾んでおり、真剣勝負の場面、リラックスして交流する場面と、実りのある2日間でした。(教員)

以上